

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02461

研究課題名(和文) 文芸雑誌『文藝首都』における新人育成と文壇ネットワーク形成に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive study on newcomer development and literary network formation in literary magazine "Bungei Shuto"

研究代表者

小平 麻衣子 (ODAIRA, MAIKO)

慶應義塾大学・文学部(三田)・教授

研究者番号：40292635

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：『文藝首都』は、文学において、書き手が同人誌での下積みを経て、文壇に見いだされるというサイクルを支えた。この雑誌について、投稿や指導のシステムを整理し、作家や作品の傾向について、植民地出身作家の参加の様態、女性作家の位置、執筆と労働との関係、戦中・戦後の出版状況への雑誌の対応、といった観点から考察した。成果はシンポジウムなどで公開し、最終的には論集を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

作家だけでなく読者や投稿者も含めた場を分析し、書き手が作家として認められる社会的構造を提示した点で、文学雑誌研究に新たな一視点を加えることができた。ジェンダー、労働、植民地、戦争といったそれぞれのテーマについても、具体的な事例を使った分析成果を提示した。また、実際に雑誌に参加していた作家から体験を聞き取ったことは、記録として重要である。これは成果としての論集に収録した。

研究成果の概要(英文)："Bungei Shuto" supported a cycle in which writers were found in the literary circle after practicing in Doujinshi. We investigated the writing system and educational system of "Bungei Shuto". The authors and their works were considered from the viewpoints of the participation of writers from colonial territories, the position of female writers, the relationship between writing and labor, and the response of magazines to publishing situations during and after the war. The results were published at symposiums and the like, and finally a paper was published.

研究分野：近代日本文学

キーワード：『文藝首都』 同人誌 女性作家 植民地 戦争 労働

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、『文藝首都』の全体像に関する著作は、主催者である保高德蔵の妻で、作家の保高みさ子の『花実の森』(立風書房、1971年)という小説がある程度であった。

研究代表者は、基盤研究(C)「文学雑誌『若草』における読者階層の形成と混交をめぐる総合的研究」(26370249)において、文芸雑誌『若草』における一般読者の投稿の傾向を明らかにしていたが、昭和戦前において、文学的投稿を愛好する読者にとって、『若草』と『文藝首都』は双壁であった。文芸の愛好誌である『若草』に対し、『文藝首都』は作家の養成を目的とする違いがあるが、後者についてもこれまでの知見を応用して分析できると考え、研究を開始した。

昭和初期、芥川賞の創設などにもみられる新人発掘ブームにおいて、大きなメディアである『改造』は、メディア・イベントとして懸賞募集を行い、それについての研究は進展を見せている。対して『文藝首都』は、作家自身のこれらの懸賞への不満をきっかけに成立したため、商業性とはやや離れた場で、文学が生産され享受される様相を明らかにできると考えた。保高德蔵個人によって経営されながら、息の長い雑誌であり、戦後まで月評や各地の支部を通じた活動が盛んであり、これらの具体相を明らかにできれば、文壇全体の新人養成のシステムの解明に役立つと考えた。

2. 研究の目的

文芸雑誌『文藝首都』について、新人作家・女性作家・植民地出身作家などの研鑽を可能にした特異なシステムや、地方在住作家と中央文壇との関係を調査する。それらを通して、投稿者や文学愛好者を含めた、文学が生産され享受される場全体の様相を明かにし、すでに蓄積されてきた個別の雑誌研究について、より高次の視野から、相関的な見取り図を描く。雑誌に直接関わった作家・編集者や遺族へのインタビューを行って情報を蓄積するとともに、基礎的データを収集・整理し、総目次などのデータベース構築を視野に入れながら、今後の資料利用に資する基盤作りを試みる。多面的な視野を持つ研究分担者、海外共同研究者との共同研究によって、作家や党派に限定されない領域横断的な分析を行う。

3. 研究の方法

『文藝首都』の図書館での所蔵は少ないため、現物の購入を進め、複数の図書館の所蔵から必要に応じて複写を補う。そのうえで、『文藝首都総目次』(文藝首都総目次編集会、1977年)を電子データ化し、誤りの修正・情報の補正をする作業を行い、内容分析の前提となる情報検索の効率化を図る。

内容分析としては、【 】新人・女性作家の動向と、他雑誌との関係性、【 】日本語作家の具体相とネットワーク、【 】地方と中央文壇の関係性、【 】戦前から戦後への切断と連続、を中心テーマに、各自の研究を研究会で共有し、精度を高める。役割分担は、研究代表者の小平麻衣子(慶應義塾大学)が全体統括するほか、島村輝(フェリス女学院大学所属。文学と政治の関係分析、詩を担当)、吉田司雄(工学院大学所属。地方読者、批評言説の分析を担当)、太田知美(フランス・トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学所属。作家の経済的自立の分析、海外事情を担当)、井原あや(大妻女子大学非常勤講師。新人表象の分析を担当)、徳永夏子(日本大学所属。ジェンダー・セクシュアリティ分析を担当)、小川貴也(データ整理の全体統括を担当)を中心として、研究会参加者をいくつかのセクションに分け、それぞれの研究を共有し、課題進展の効率化を図る。

4. 研究成果

初年度は、『文藝首都』誌の収集、発行情報の整理、総目次の検証を行った。研究会は5回開催した(第4回以外の会場は、慶應義塾大学三田キャンパス)。【第1回】2017年7月23日(日)15:00~18:00。【第2回】2017年10月1日(日)14:00~18:00。【第3回】2017年11月25日(土)14:00~15:30。【第4回】2017年12月17日(日)14:00~18:00(日本大学スポーツ科学部キャンパス本館2階会議室1)。【第5回】2018年3月24日(土)13:00~17:00。保高德蔵を中心とする雑誌初期の人脈や文学傾向、戦中の国策への雑誌の対応、中上健次など現代作家の参加様態などについて、発表者の報告を通じて、議論を深めた。また、『文藝首都』に参加した作家のインタビューを行った。

第2年目は、具体的な分析的事実の蓄積を目的として、研究会を4回開催した(会場はすべて慶應義塾大学三田キャンパス)。【第1回】2018年4月21日(土)13:00~18:00。【第2回】2018年9月22日(土)13:00~17:00。【第3回】2018年12月22日(土)13:00~17:00。【第4回】2019年3月17日(日)12:00~18:00。また、国際会議は、2018年7月21日(土)・22日(日)の2日間、慶應義塾大学三田キャンパスにて、研究会メンバーの発表に加え、作家・紀和鏡氏の講演、海外からのゲストの研究発表を行った。ゲストは、台湾、フランス、カナダから招いた。この開催に合わせ、これまで参照されてこなかった会報などにも調査対象を広げ、『文藝首都』の詳細な年表を作成した。

第3年目は、これまでの研究会やシンポジウムの成果をふまえ、参加者各人の論文の作成、相互の精査を経て、成果となる論集『『文藝首都』公器としての同人誌』を2020年1月に刊行した。ゲストを含めて17人の執筆者による論を収めた。この内容が、ほぼ3年間の総合的な成果に当たる。明らかにしたことは4点ある。

1点目は、常に新鮮な才能を発掘したいという文壇の期待があり、その期待を書き手が上昇の欲望と重ねて受け止めて成立しているのが同人誌だが、そうした基本構図を確認し、その都度の歴史的な脈絡に従って変化する文壇からの期待に対し、書き手が交渉しながら受容する過程、あるいは偶発的だとしても同人誌が上記の構造とは異なる意味合いを持ってしまう場合を記述した点である。青野季吉、林芙美子、大原富枝などを対象とした。

2点目は、帰属場所を得ようとするほどずれを顕在化もさせてしまう 個 の問題を検証した点である。これは、成員は異なれど、文壇で評価されたいという欲望を緩やかに共有する雑誌という場、また戦後の日本という空間、双方の視座から検証した。植民地出身の作家にとっての日本文壇の意味を中心に、戦後のノーマライゼーションにかかわる諸作家、中上健次などについても対象とした。

3点目として、同人誌の参加者に特徴的な、本業 を持つことと、書くことの素人性が、プロレタリア文学や農民文学、勤労詩などの問題設定、あるいはジェンダー・バイアスの中で、いかなる関係として語られ、作品を再文脈化するのか、具体的な事例に即して分析した点である。和田伝や早船ちよ、国鉄勤労詩論争、医師と兼業する作家などを対象とした。

4点目として、リアリズム を奨励する『文藝首都』が、戦時においては、体制に順応する刊行の存続を果たしながら、異なる要素を点在させていることを確認したうえで、状況が招来する複雑さや決定不能性を、テキスト、作家の自意識といった複数のレベルで検証した点である。従軍作家としての上田広、戦時下に芥川賞を受賞した芝木好子、金達寿、林京子などを対象とした。

また、『文藝首都』に参加した作家である勝目梓氏、紀和鏡氏、飯田章氏、佐江衆一氏の講演記録やインタビューによって、当時の実情を明らかにした。これは記録としても重要である。ほぼ保高德蔵個人によって支えられた同人誌の運営状況や、支部・合評会の意義などの詳細が明らかになった。全体として、作家だけでなく読者や投稿者も含めた 場 を分析し、社会的構造としての文学を明らかにした点で、文学雑誌研究に新たな一視点を加えることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 島村輝	4. 巻 -
2. 論文標題 Experience and hope: the nuclear issue and Asia through the life of the novelist Hayashi Kyoko	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CIVIL SOCIETY AND POSTWAR PACIFIC BASIN RECONCILIATION WOUNDS, SCARES, AND HEALINGS	6. 最初と最後の頁 104-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小平麻衣子	4. 巻 94-5
2. 論文標題 林芙美子と文芸誌『若草』 忘却された文学愛好者たち	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 81-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小平麻衣子	4. 巻 1026
2. 論文標題 林芙美子・ 赤裸々 の匙かげん 『放浪記』の書きかえをめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田文学女性号	6. 最初と最後の頁 397-403
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村輝	4. 巻 3
2. 論文標題 こうの史代「夕風の街 桜の国」と現代日本における「被爆体験」の表象化	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東アジア文化研究	6. 最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島村輝	4. 巻 16
2. 論文標題 「再びルイヘ。」から「祭りの場」へ / 「祭りの場」から「再びルイヘ。」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 原爆文学研究	6. 最初と最後の頁 77-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田司雄	4. 巻 76
2. 論文標題 代替歴史と情報ネットワークの時代 - クロスオーバー小説としての『屍者の帝国』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 132-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 島村輝
2. 発表標題 ジャーナリズムの「捏造」とデモクラシーの「逼塞」 転向点・一九三三年の報道空間
3. 学会等名 日本社会文学会2018年度春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島村輝
2. 発表標題 「道徳教材」にされた或る戦後児童文学
3. 学会等名 日本文学協会第38回研究発表大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島村輝
2. 発表標題 一〇〇年前に蒔かれた種 小牧近江の留学体験と日本プロレタリア文学運動の源流
3. 学会等名 S F E J 国際会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島村輝
2. 発表標題 雑誌『わかもの』と一九六〇年前後の日本共産党系青年運動 「民主主義」イメージをめぐる
3. 学会等名 オーストラリア日本学会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島村輝
2. 発表標題 山村を揺るがした「ダンス至上主義」 「静かなる山々」と戦後日本共産党の文化運動
3. 学会等名 日教研共同研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島村輝
2. 発表標題 「再びルイヘ。」から「祭りの場」へ / 「祭りの場」から「再びルイヘ。」
3. 学会等名 第53回原爆文学研究会 「原爆文学」再読5 林京子「再びルイヘ。」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井原あや
2. 発表標題 朗読文学 太宰治と文学者たち
3. 学会等名 太宰治スタディーズの会第1回例会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 小平麻衣子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 258
3. 書名 小説は、わかってくれば、おもしろい 文学研究の基本15講	

1. 著者名 島村輝、小ヶ谷千穂、渡辺信二	4. 発行年 2018年
2. 出版社 松柏社	5. 総ページ数 197
3. 書名 少しだけ「政治」を考えよう！ 若者が変える社会	

1. 著者名 岩崎稔・成田龍一・島村輝	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 アジアの戦争と記憶 二〇世紀の歴史と文学	

1. 著者名 小平麻衣子(編著)、吉田司雄、徳永夏子、島村輝、井原あや	4. 発行年 2018年
2. 出版社 翰林書房	5. 総ページ数 351
3. 書名 文芸雑誌『若草』 私たちは文芸を愛好している	

1. 著者名 島村輝	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 360
3. 書名 「談奇党」「獵奇資料」復刻 第1巻	

1. 著者名 島村輝	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 「談奇党」「獵奇資料」復刻 第2巻	

1. 著者名 島村輝	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 454
3. 書名 「談奇党」「獵奇資料」復刻 第3巻	

1. 著者名 島村輝	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 260
3. 書名 「談奇党」「獵奇資料」復刻 第4巻	

1. 著者名 小平麻衣子、和泉司、尾崎名津子、村山龍、富永真樹、高橋梓、王惠珍、ジェラルド・ブルー、松本海、 椋棒哲也、井原あや、小長井涼、吉田司雄、清松大、小川貴也、クリスティーナ・イ、島村輝、勝目梓、 佐江衆一、飯田章、紀和鏡	4. 発行年 2020年
2. 出版社 翰林書房	5. 総ページ数 335
3. 書名 『文藝首都』 公器としての同人誌	

〔産業財産権〕

〔その他〕

学術論文とは別に解題として、江戸川乱歩、小中千昭、吉田司雄『江戸川乱歩『少年探偵団・超人ニコラ』』（岩波書店、2017年、454ページ）、江戸川乱歩、佐野史郎、吉田司雄『江戸川乱歩『怪人二十面相・青銅の魔人』』（岩波書店、2017年、432ページ）。

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	島村 輝 (SHIMAMURA TERU) (90216078)	フェリス女学院大学・文学部・教授 (32711)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	井原 あや (IHARA AYA)		
研究協力者	太田 知美 (OTA TOMOMI)	トゥールーズ・ジャン・ジョレス大学・Section de japonais・准教授	
研究協力者	小川 貴也 (OGAWA TAKAYA)		
連携研究者	吉田 司雄 (YOSHIDA MORIO) (50296779)	工学院大学・教育推進機構・教授 (32613)	
連携研究者	徳永 夏子 (TOKUNAGA NATSUKO) (00579112)	日本大学・スポーツ科学部・専任講師 (32665)	